

将来都市構造

将来都市構造とは

都市構造は、都市機能配置の概念を示すものであり、都市づくりの方針を実現するため、現在の土地利用や自然環境の骨格をベースに、将来像や主要なプロジェクトを考慮して設定します。

■都市構造の現状と課題

本市は、北部の小岱山、東部の金峰山系の山々、南北に貫く菊池川、その菊池川が育む広大な平野、南部の有明海と、恵まれた自然環境に包まれた「やま・まち・さと・うみ」により構成されています。

また、本市は、旧玉名市と岱明町、横島町、天水町が合併して誕生しており、現状においても、旧町単位での生活圏の形勢が色濃く残っています。一方で、本市市街地は、国道 208 号沿道に東西方向に拡散し、交通動線としての道路は、南北方向の配置が脆弱な状況にあり、今後は、市民の生活利便性を高め、より便利で快適に生活できる環境を形成するために、全市を一体的に捉えたまちづくりが求められています。

■都市構造の基本的な捉え方（ゾーンと拠点、軸の考え方）

本市の「やま・まち・さと・うみ」の個性と魅力を活かし、目指すべき都市像を踏まえ、将来の都市形成の基本的構成を「ゾーン」としてとらえ、それぞれの位置づけを示します。

また、集約型の都市構造を実現し、拠点性を備えた核となる地域とそれを取り巻く地域が特色を持ちながら相互に連携し、一体的な発展を目指した都市づくりを行うため、「拠点」を位置づけ、それぞれの特徴を示します。

さらには、それぞれの拠点が効果的に連携し、市域の一体的発展が図られるよう「都市軸」を設定します。

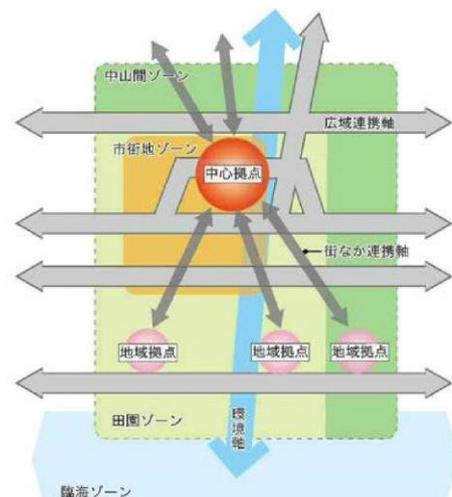
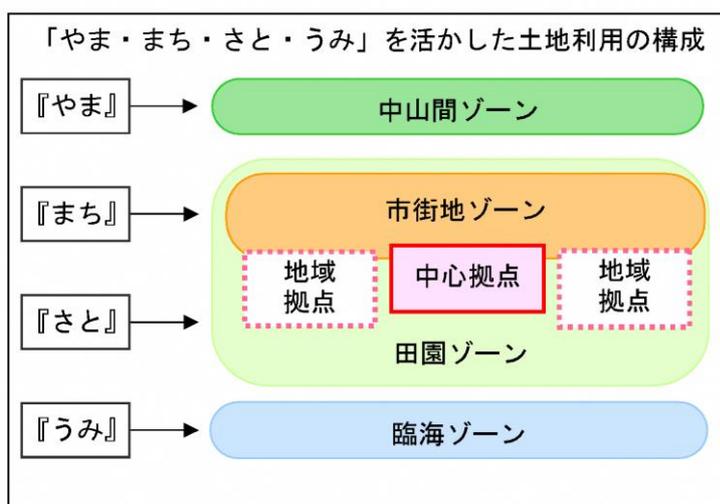


図 将来都市構造の基本イメージ

ゾーン区分（土地利用構成）

■市街地ゾーン

国道 208 号と JR 鹿児島本線に囲まれた区域は、本市の中心的な市街地を形成すべきゾーンであり、住宅、商業、サービス業、教育・文化、業務などの都市的機能の整備を重点的に進める「市街地ゾーン」として位置づけます。

とくに、JR 玉名駅周辺や、玉名市役所本庁舎周辺、旧玉名市役所周辺、九州新幹線新玉名駅周辺については、市民生活を支える各種公共公益サービスが集積した本市の「中心拠点」及び「交通拠点」として、各種機能の維持・集積・強化を図ります。

■田園ゾーン

市街地ゾーン周辺の農地については、「田園ゾーン」として位置づけ、本市の基幹産業である農業の振興を進めると同時に、豊かな自然環境や美しい田園景観の形成などにも寄与している区域として保全を図りながら、「市街地ゾーン」へのアクセス性・生活利便性を高めます。

■中山間ゾーン

本市北部の小岱山、東部の金峰山系の山間部については、豊かな自然資源や歴史的資産の宝庫であるとともに、特に天水地区における熊ノ岳・三ノ岳の丘陵地は、全国でもトップクラスの生産量を誇るみかんの産地です。

また、水源のかん養、地球温暖化防止など多面的機能を有することから、森林の多面的機能を活かした保全と整備及び中山間地域の農業振興を重点的に進める「中山間ゾーン」として位置づけます。

「中山間ゾーン」は、現在の豊かな自然・歴史資源の保全・活用を図るほか、玉名らしい景観形成への活用、休息やレクリエーションの場としての活用を図ります。

■臨海ゾーン

本市南部の有明海沿岸部については、有明海の自然を活用した水産業及び臨海レクリエーションの振興を進める「臨海ゾーン」として位置づけ、漁場の保全と整備を進め、海苔やアサリなどの水産業の振興を推進する場としての活用を図ります。さらに、地域団体と連携し、有明海の景観を活かしたレクリエーションや観光漁業などの振興に繋がります。

都市拠点

■中心拠点

中心拠点とは、本市の主要な機能・施設が集積している場所として、**玉名市役所本庁舎周辺、既存の商店街、旧玉名市役所周辺を併せた一帯を位置づけます。**公共・公益サービス、商業・業務サービス、情報発信など、**積極的な都市機能の誘導等を進め、中心拠点としての求心力向上に努めます。**

■地域拠点

地域拠点とは、各地域で市民生活を支える機能や施設が集積している場所として、各地域の中心地として住民サービスを担ってきた**岱明支所周辺、横島支所周辺、天水支所周辺を位置づけます。**地域拠点は、地域住民の生活の中心であり、教育・文化活動やコミュニティ活動の拠点として、**周辺の公共公益施設の集約化や、生活サービス・文化交流機能の維持・向上に努めます。**

■交通拠点

交通拠点とは、九州新幹線や JR 鹿児島本線、高速道路などの広域交通ネットワーク、幹線道路、バス路線などの地域交通網の結節点として、また、様々な交流活動の中心として、本市の玄関口である九州新幹線新玉名駅周辺及び JR 玉名駅周辺を中心とした各エリアを位置づけます。

九州新幹線新玉名駅周辺については、新玉名駅周辺等整備基本計画に基づき、周辺の土地利用との調和を図るとともに、適正な機能の誘導に努めます。

JR 玉名駅周辺については、交通結節点としての機能向上を図ると同時に、主要観光スポットである玉名温泉街、玉名駅周辺から玉名温泉街、新玉名駅までの歩行者・自転車ネットワークを確立する等、アクセス性の向上を図ります。

■観光拠点

観光拠点とは、本市の観光地の中心となる場所として、由緒ある玉名温泉街や小天温泉を中心とした地域を位置づけ、風情ある街並みなどの醸成に努めつつ、**文化遺産の保存・活用や、地域の観光施設や文化遺産を案内できる人材の育成を進め、魅力的な観光空間の形成を図ります。**

■交流拠点

交流拠点とは、市内外の人が集い交流する場や、豊かな自然とのふれあいの場として、「**蛇ヶ谷公園や桃田運動公園などの公園**」、「**鍋松原海水浴場**」などを位置づけます。市民の憩いの場、スポーツやレクリエーション及びコミュニティ活動などの場としてさらなる交流機能の維持・向上を図ります。

都市軸

■広域連携軸

九州新幹線及び鹿児島本線をはじめ、九州縦貫自動車道(菊水インターチェンジが近接)、**国道208号(荒尾-玉名-熊本(北区))**、**国道501号(長洲-玉名-熊本(西区))**、**県道玉名立花線～玉名山鹿線(玉名-山鹿)**、**県道熊本玉名線(玉名-熊本(中央区))**などの路線については、本市はもとより、県北地域をはじめ、九州圏における交通の「広域連携軸」の一部を形成しており、物流や都市間交流を支える基盤として、さらなる活用を図ります。

■街なか連携軸

市内の主要な各路線(県道、市道)を「街なか連携軸」として位置づけ、市内の主要な公共公益施設などを結び、市全域から「中心拠点」へのアクセス利便性を高める主要道路として、関係機関との連携を図りながら交通利便性・安全性の向上に向けた取組を推進します。

また、**高齢化社会や脱炭素化社会の構築を視野に入れ、「歩きたくなるまち玉名」をコンセプトに、安全安心に歩ける道づくりを進めます。**

■環境軸

菊池川などの河川空間は、市民にとっても貴重な自然空間であり、市街地中心部の緑地帯及び憩いの場となっています。また、本市の都市構造においても、北部の山間部から、田園ゾーン、市街地ゾーンを流れ、有明海に注ぐ、本市南北を貫く重要な軸でもあります。

そこで、「環境軸」として位置づけ、浸水などの災害に備えた河川改修を促進するとともに、生態系に配慮した多自然川づくりを推進し、生態系に十分配慮した環境共生の取り組みや、豊かな市民生活の実現や健康増進に向けた憩いの場として積極的な活用を図ります。

図一 将来都市構造図

<主な見直し、更新ポイント>

- 「広域連携軸」と「街なか連携軸」の見直し、更新
- 「中心拠点」の該当エリアの見直し(JR 玉名駅周辺商店街を包含)
- 「観光拠点」の見直し

